

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立北野中学校

4月22日に、本校3年生105名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を見た調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の生徒たちの状況をお伝えします。

【総合結果（国語・数学）】

国語A・B、数学A・Bともに本校は京都市平均を若干上回っています。数値を見る限りでは、昨年度と同様に概ね良好な結果が得られました。全国的な調査結果の傾向は、過去と同様、平均正答率は、基礎的知識を問うA問題よりも知識の活用力を見るB問題が低く、依然として活用に課題がありました。過去のテストで課題が指摘された分野も、複数の文を一つにまとめることや四則演算などでは改善が見られましたが、文章や資料から読み取ったことを根拠に基づいて説明したり、証明したりすることは苦手なままです。

	国語A（知識）	国語B（活用）	数学A（知識）	数学B（活用）
全国	79, 4	51, 0	67, 4	59, 8
京都府	79, 4	51, 3	67, 7	60, 1
京都市	80, 0	51, 9	67, 6	60, 5

【国語について】

国語Aについて、「話す聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識理解技能」の領域別正答率はすべて京都府を上回っていました。特に、「読む能力」については全国を5.9ポイント上回っており、「物語文」「説明文」とも、長文の読解力が身に付いているように思われます。また、「言語についての知識理解技能」は全国を5.4ポイント上回っており、漢字の読み書き、四字熟語や慣用句などの言葉の知識がよく身に付いているように思われます。

国語Bについても、「書く能力」「読む能力」「言語についての知識理解技能」の領域別正答率はすべて京都府を上回っていました。しかし、設問別に見ると「資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く」趣旨の問題に関しては、全国平均を下回っていました。この問題は説明的文章とインターネットの情報を読み比べ、そこから問題の指示に従って文章を書くというものです。全国の正答率も28.4パーセントと低く、難易度が高いものでしたが、日常の授業の中、あるいは家庭学習において、下記のような点を考慮に入れながら取り組んでいく必要があると考えます。

【課題克服の取組】

- 多くの本、文章に目を通し、大事だと思われる箇所を取りだして読むこと（読む）

- ② 文章の中の、大事だと思われる部分を抜き書きしたりし、効率よくまとめること（要約）
- ③ まとめたキーワードを使って、事柄が明確に伝わるように書くこと（説明）
- ④ その際、その場面に適切な言葉が使えるよう、言葉の知識を豊富に身に付けること（言語の知識）
- ⑤ 国語科だけでなく、他教科においても感想文やレポートなどの活動に取り組むこと（書く）

【数学について】

数学Aについて、「数学的な技能」「数量や図形などについての知識理解」の領域別正答率はすべて京都府を上回っていました。特に「数と式」の問題については全国平均を 5.9 ポイント上回っており、計算の基礎基本がしっかり定着しているように思われます。しかし、「資料の活用」の問題に関しては、全国平均を下回っていました。ここは、1年生時の最終単元であり、じっくり時間をかけて取り組めていない現状があったと考えられます。また、この領域は教科書の改訂で削除されていた時期もあり高校入試に出題される可能性が低く軽視されていた領域だと考えられます。昨年、京都公立入試に出題されたことを考えると軽視は禁物であると考えます。

数学Bについても、「数量や図形などについての知識理解」の領域別正答率は京都府を上回っていました。しかし、「図形」の問題については、全国平均を下回っていました。この問題は「図形の証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄を用いることができる」というものです。この問題は全国の正答率も 24.4 パーセントと低く、難易度が高いものでした。数学Aの「資料の活用」も合わせ、日常の授業の中、あるいは家庭学習において、下記のような点を考慮に入れながら取り組んでいく必要があると考えます。

【課題克服の取組】

- ① 条件を整理し、筋道を立てて答えを導き出す（証明）
- ② 問題文の条件を、図の中に適切に書きこむ（図形）
- ③ 数学用語を正確に理解し適切に使うことができる（言語活動）
- ④ グラフを活用し、グラフからわかることを導き出す（資料の活用）
- ⑤ 徹底した基礎基本の定着（計算）

【生徒質問紙調査より（1）】

Q 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか

Q 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

家庭学習の状況 (%)		4時間以上	3時間以上	2~3時間	1~2時間	1時間以下	全くない	その他	無回答
平 日 (月～金)	北野中		13.7	23.5	24.5	28.4	9.8	0.0	0.0
	全 国		10.4	24.7	32.8	26.3	5.7	0.0	0.1
学校休業日 (土・日)	北野中	4.9	9.8	13.7	14.7	35.3	20.6	1.0	0.0
	全 国	5.2	11.7	23.4	27.1	21.2	11.3	0.0	0.1

「平日、1日3時間以上勉強する」生徒の割合が、全国平均より上回っており、「学校休業日に4時間以上勉強する」生徒の割合が、全国平均より少し下回っている一方で、「全くしない」と答えた生徒の割合は、全国平均を上回っています。特に、「学校休業日には全く勉強しない」という生徒が20.6%もあり、全国平均の11.3%に比べて多く、「家庭学習を行う生徒」と「全くしない生徒」の学力に大きな影響を与えています。

【生徒質問紙調査より（2）】

- Q 普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか
(コンピュータゲーム・携帯式のゲーム・携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)
- Q 普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）

使用状況について（%）		4時間以上	3~4時間	2~3時間	1~2時間	1時間以下	全くない 持っていない	その他	無回答
ゲーム (月～金)	北野中	10.8	14.7	13.7	14.7	32.4	13.7	0.0	0.0
	全 国	11.0	9.3	15.1	21.0	26.7	16.8	0.0	0.1
携帯・スマホ (月～金)	北野中	12.7	12.7	20.6	10.8	17.6	24.5	1.0	0.0
	全 国	11.0	8.8	12.9	15.0	28.5	23.5	0.3	0.1

携帯電話やスマートフォンの所持率はたいへん高く、全国平均を大きく上回っています。また、ゲームをしたり携帯電話やスマートフォンで通話やメールをする時間も、1日「4時間以上」および「3時間以上4時間未満」の生徒の割合が、全国平均より上回っています。特に、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをする時間が、1日「4時間以上」と「3時間以上4時間より少ない」の生徒の割合を合わせると25.4%となり、全国平均の19.8%に比べてもかなり多く、携帯電話やスマートフォンへの依存症が心配されます。ご家庭でも、お子たちの携帯電話やスマートフォンの使用状況について今一度見直していただく必要があるかもしれません。

【全体を通した本校の成果と課題】

本校では、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という方針のもと、学力向上の取組に関しては、校下の小学校と合同研修会を行うなど、全校調査やジョイントプログラム等の学力情報を共有して、日々の指導方法の改善や、個に合った指導に努めてきました。

生徒も、自らのテスト結果等の成績を振り返り、弱点を補充プリントで繰り返し学習したり、自らの進路の実現に向けて進んで調べ学習をするなど、学校全体として概ね良好な結果が得られました。

しかし、生徒質問紙結果（1）でも示したように、平日や学校休業日に「予習や復習などの家庭学習を行う生徒」と「全くしない」生徒の学力には大きな差があります。特に、本校では「学校休業日には全く勉強しない」という生徒が20.6%おり、全国平均の11.3%

に比べて多く、ここを大きな課題ととらえています。

学校として、ある程度の宿題を家庭学習として課すことは必要なことだと思いますが、家庭学習のすべてを宿題に頼ることについては問題があると考えております。生徒一人一人の学習到達度も違いますし、中学校卒業後の目指す進路も多岐に分かれています。やはり、自分の課題をしっかりと把握して、今の自分にとって必要な学習に取り組むこと、いわゆる「自学自習」ができるように努力していかなければならないと思います。

社会に出た時には、必ず「自学自習」が必要になります。社会人の仕事のほぼすべてが「自学自習」を必要としています。自分で考えて、行動し、失敗して、改善して、また新たに取り組んでいく人を社会は求めています。学校もご家庭でも、このことを意識して取り組んでいきたいと思います。

【保護者の皆様へ】

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今後とも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいいたします。